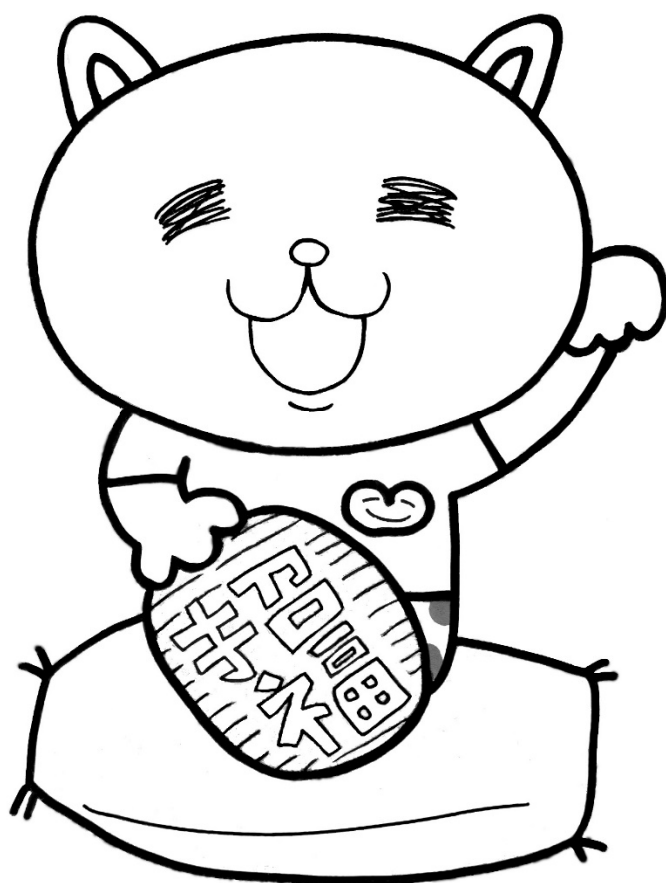


令和元年度実施

市民協働「熊谷の力」事業

「はじめの一步助成金」事業

合同成果報告会



©熊谷市

熊谷市市民活動推進課

次 第

日 時：令和2年10月8日（木）

午後1時30分から

会 場：大里コミュニティセンター
大集会室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告発表 13:35～15:40（予定）

市民協働「熊谷の力」事業

報告 発表順	区分	事業名	報告者		発表 予定時刻
			市民活動団体	所管課	
①	市提案	ホテル保護啓発看板設置事業	特定非営利活動法人 熊谷市ほたるを保護 する会	環境政策課	13:35～ 13:45
②		ごみ分別PR動画作成事業	劇団DOUBT ーダウト	環境推進課	13:45～ 13:55
③	市民提案	打ち水大作戦サポーター養成事業	特定非営利活動法人 エコネットくまがや	環境政策課	13:55～ 14:05
④		ピンクリボンライトアップ事業	NPO法人 くまがやピンク リボンの会	保健センター	14:05～ 14:15

（10分休憩）

「はじめの一步助成金」事業

報告 発表順	区 分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表 予定時刻
⑤	チャレンジ助成金	こども食堂と学習支援活動	NPO法人SK人権ネット	14:25～ 14:35
⑥		おもてなし英語ガイドリーダー育成事業	NPO法人AEA英語通訳 キッズプロジェクト	14:35～ 14:45

報告 発表順	区 分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表 予定時刻
⑦	スタート 助成金	二十二夜 月待ち講イベント	二十二夜ー 熊谷の結わえるトコロ	14:45～ 14:55
⑧		熊谷地域における藍・木綿文化の発掘 及び広報活動	くまがや藍・木綿 文化研究会	14:55～ 15:05
⑨		歌唱を活用したレクリエーションや 音楽会、健康教室、研修会	歌声広場 まりおん	15:05～ 15:15
⑩		小さな講演会と文化財保管施設等の 見学会	ミュージアムを 作りたいね会議	15:15～ 15:25
⑪		発達障害や不登校等の悩みを抱える 家族のサポート	あすなろ・すみれ会	15:25～ 15:35

4 講 評

5 閉 会

事業名	市民協働「熊谷の力」ホタル保護啓発看板設置事業	
実施団体等	実施団体：特定非営利活動法人熊谷市ほたるを保護する会	所管課：環境政策課
1 事業目的	ほたる坂通り（市道江南110号線）に啓発看板を設置することで、自然発生する江南地区のホタル保護活動及び地域における保護思想の一層の啓発を図る。	
2 事業概要	看板のデザインに地元小中学生のイラストを募集、ホタル保護を啓発するための看板を3基製作し、ほたる坂通りに設置した。	
3 事業期間	平成31年4月1日～令和元年12月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業（補助率 %）	
6 事業費	総事業費：869,000円(A+B+C)	事業収入：円(A)
	実施団体の負担額：円(B)	市の負担額：869,000円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>ホタル保護の啓発看板の製作、ほたる坂通りへ3基設置した。</p> <p>12/15（日）イラストを描いてくれた地元の小中学生を招き除幕式を行うとともに、感謝状を贈呈した。</p> <p>●達成度</p> <p>ホタルを鑑賞に来る方の目に入りやすい場所への設置、見てもらえるようなデザインを検討し完成することができた。</p> <p>●波及効果</p> <p>地元の小中学生にデザインに関わってもらったことで、地域愛の向上を図ることができた。熊谷市誕生10周年記念事業で決定した市道の愛称「ほたる坂通り」の周知をすることができた。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>除幕式の様子が市報で紹介されPRに繋がった。</p>	
	<p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>小中学生が描いたイラストの活用や、金子兜太先生のほたるに関する句を引用するなど、実施団体ならではの発想により、素晴らしい看板が完成した。</p>	
9 今後の展開と課題	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>看板へのイタズラ防止など設置後の管理を行っていく。看板内容の更新を定期的に検討し、小中学生に引き続き関わってもらうことで、更なる郷土愛の向上を期待する。</p>	
	<p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>この事業を通して、地域におけるほたる保護思想が強まるとともに、より豊かな地域コミュニティの形成に寄与できると考える。</p>	

事業名	市民協働「熊谷の力」ごみ分別PR動画作成事業	
実施団体等	実施団体：劇団 DOUBT-ダウト-	所管課：環境推進課

1 事業目的	ごみにおける市民の意識向上を図るための広報手段増加	
2 事業概要	<p>本市の市民1人当たりごみ排出量は県内でも多く、ごみの減量化対策は緊急課題。そこで本事業をごみ減量化策の手段の一つとして、正しいごみの分別について啓発を行ない、他のリサイクル教室や環境イベント等と合わせてごみの減量化を目指す。</p> <p>市内の「劇団 DOUBT」との協働で、ごみの分別をテーマとした動画を作成。子供から大人まで幅広い年代をターゲットにした、「ごみの分別と5Rの重要性」についてわかりやすい啓発動画を作成した。インターネット等でも会場等を問わず鑑賞できるように工夫した。</p> <p>ごみの処理責任は市町村にあるが、市民は排出原因者であること理解してもらうため、市民自ら作り上げていくことにより市民が当事者の気持ちを持つことを促す。</p>	
3 事業期間	平成31年4月1日～令和2年2月26日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業（補助率 %）	
6 事業費	総事業費： 800,000円(A+B+C)	事業収入： 円(A)
	実施団体の負担額： 0円(B)	市の負担額： 800,000円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>動画という親しみ易い媒体を利用することで、大人から子供まで終始楽しく、ごみ減量の大切さや、ごみの分別、ダンボールコンポストの作成方法を学ぶことができた。</p> <p>●達成度</p> <p>YouTubeに動画をアップロードし、熊谷市ホームページに掲載することで多くの市民にごみ減量化等の問題意識を啓発する取組が出来た。</p> <p>●波及効果</p> <p>ごみの減量化やごみの分別、リサイクル意識の向上に大きな効果があり、ごみの減量化やリサイクル活動の今後に対して期待が持てる。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画制作の取材を通じて、熊谷市のごみの現状認識、課題を把握できた。 ・外部発注ではないため低予算で、かつ市民劇団による市民目線の啓蒙動画を製作できた。 ・関係する市民活動団体の横の連携によるPR効果。 ・協働事業なので、熊谷市の施設及び人気キャラクターを借り受けできた。 ・今まで舞台を発表の場としていたが、新しいことにチャレンジできた。 <p>●所管課から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体を通じて動画の作成を行なったことで、行政では作成しないであろう視点での動画撮影ができ、貴重な作品が作成できた。動画の編集等、所属職員だけでは対応することが困難であったが、協働事業により、達成することができた。 	
9 今後の展開と課題	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画のPR、周知。 ・取材を通じて熊谷市の抱えるごみの問題について、課題と関心を深めることができたが、今回の動画をはじめ市民の関心をより引き付ける取り組みが必要。 ・今後はより実務的な動画も必要。 <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>今回の成果物が動画であり、YouTubeでの動画再生回数は増えているが、時間の経過とともに減少することが予想されるため、継続的にPRする必要がある。</p> <p>また、YouTubeだけでなく環境イベント等でもDVDの放映を実施するなど、多くの市民の方に見ていただくための工夫を行なう必要がある。</p>	

事業名	市民協働「熊谷の力」打ち水大作戦サポーター養成事業	
実施団体等	実施団体：特定非営利活動法人エコネットくまがや	所管課：環境政策課
1 事業目的	暑い夏を電力に頼らず快適に過ごせる方法として手軽にできる打ち水を、たくさんの人に知っていただくよう打ち水サポーター養成講座を開催するとともに、あわせて星川区域で打ち水イベントを行うことにより、周辺商店街及び中心市街地の活性化を図ることを目的とする。	
2 事業概要	<p>1 打ち水大作戦サポーター養成講座の開催（7/7（日）） 打ち水をたくさんの人に知っていただくためにサポーター養成講座を開催し、認定されたサポーターが地元地域で打ち水をアピールする。</p> <p>2 打ち水大作戦2019～星川水まつり～“暑さにトライ”の開催（8/10（土）） 星川区域で打ち水イベントの開催 （イベント内容） 打ち水、氷リング（こおりんぐ）大会、オリジナルひしゃく作り、魚つかみ、星川たらい舟 ほか</p>	
3 事業期間	平成31年4月1日～令和元年12月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ <u>市民提案事業</u>	
5 事業形態	委託事業 ・ <u>補助事業</u> （補助率 80%）	
6 事業費	総事業費：501,176円(A+B+C) 実施団体の負担額：145,176円(B)	事業収入：10,000円(A) 市の負担額：346,000円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果 8/10に開催した打ち水大作戦は、養成講座に参加して認定された打ち水サポーターをはじめ、各企業・団体の協力で星川周辺で打ち水を実施。たらい舟、魚つかみなどのイベントを併せて行うことで、当日来場したおよそ1,300人の参加者に満足感を与えるとともに、打ち水の効果を感じてもらうことができた。</p> <p>●達成度 打ち水サポーター養成講座参加者数 目標：100人 結果：60人（達成率60%） 打ち水大作戦参加者数 目標：1,300人 結果：1,300人（達成率100%）</p> <p>●波及効果 打ち水サポーターを養成し、地域で活動してもらうことで、市内全体に打ち水を普及できる可能性が確認できた。また、打ち水イベントと地元商店街のイベント（星川夜市）との同時開催も行い、地域の活性化にも寄与することができた。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果 熊谷市からは、市報やHPを通じて広報していただいたため、相当のPR効果があった。また、当該助成金により、市内全小学校にチラシを配布することができ、運営において大きな力となった。実施団体としては、打ち水の関心を得るために、振り付けを独自に考案し、講習会で参加者に教授するとともに、それをSNSで広く発信することで、関心を広めることができた。</p> <p>●所管課から見た協働の効果 例年行っている打ち水イベントに加え、今回は打ち水サポーターを養成し、たくさんの人に打ち水を普及していくというコンセプトを元に取り組んだ。これまで市は、後援という形で間接的に関わってきたが、今回は協働事業ということで直接的に当事業に関わることで、暑さ対策や地球温暖化対策について、より広くアピールすることができた。 また、打ち水イベントの当日（8月10日）は大変暑い中であったが、多くの方に参加いただき、「熊谷の暑い夏をみんなで楽しく乗り切ろう」という気持ちを共有するとともに、会場周辺の温度を打ち水効果により2～3℃下げることが出来た。</p>	

9 今後の展開と課題

●実施団体から見た今後の展開と課題

今後、サポーターを通じて打ち水をさらに普及させていくには、サポーターの任務を明確にし、研修等を継続的に行っていくと同時に、組織化して市内各地で活動できるようにする仕組みづくりが必要である。

また、暑さ対策事業として行っているクールシェアと当該事業を一体で行うなどの工夫をし、暑い熊谷を涼しく過ごせるためのライフスタイルとして広く市民に浸透させることができればと考えている。

●所管課から見た今後の展開と課題

打ち水は、エコな地球温暖化対策の1つであると言えるが、こういった地球温暖化対策や環境問題に対する取組みは、直ちに効果が現れづらいという側面がある。しかしながら、未来の熊谷のためにも取り組んでいかなくてはならない重要な課題でもある。

多くの方に環境に関する意識を高めてもらうためにも、このようなイベントを初めとした環境意識啓発事業をこれからも積極的に行っていくことが必要であると言える。

事業名	市民協働「熊谷の力」ピンクリボンライトアップ事業		
実施団体等	実施団体：NPO法人くまがやピンクリボンの会	所管課：熊谷保健センター	
1 事業目的	国宝を有する妻沼聖天山歓喜院境内の平和の塔と貴惣門をピンク色にライトアップすることで、乳がん検診受診率の向上と、がんの早期発見・早期治療の重要性を啓発し、受診行動につなげる。		
2 事業概要	NPO法人くまがやピンクリボンの会が、世界的なピンクリボン月間である10月(1日～31日)に妻沼聖天山歓喜院境内の平和の塔と貴惣門へのピンク色のライトアップをした。ライトアップに当たり点灯式とイベントを開催し、より多くの方にがんの早期発見・早期治療の重要性を伝えた。市は、NPO法人くまがやピンクリボンの会への補助金交付のほか、事業にかかる助言と広報面での協力を行った。		
3 事業期間	令和元年6月10日～令和2年1月31日		
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業		
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業 (補助率 80%)		
6 事業費	総事業費： 675,356円(A+B+C)	事業収入： 0円(A)	
	実施団体の負担額： 225,356円(B)	市の負担額： 450,000円(C)	
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>世界的なピンクリボン月間にあわせ、ピンク色にライトアップされた様子は、インパクトのあるものとなった。市内外から多くの方を迎えることができた。点灯式イベント当日は、受付開始わずか1時間で用意したがん資料等全300部を配付、また、ピンクリボン御朱印、おっぴまんじゅうへの行列に加え、応援アトラクションは好評であった。さらに、最新型乳がん視触診モデル体験コーナーでも多くの方が興味深そうに体験していた。</p> <p>●達成度</p> <p>ライトアップすることで、ピンクリボンが乳がんを撲滅するシンボルであることの周知を図ることができ、乳がん検診受診の重要性、早期発見早期治療への啓発に繋がった。また、世界的なピンクリボン月間である10月の初日に点灯式イベントを開催することで、行政等関係団体ほか、地域の自治会や学校、商店街等に協力いただけたことも、がん検診の啓発には非常に効果的であった。なお、点灯式イベント当日の総動員数は約600人(埼玉新聞発表)で想定を上回った。</p> <p>●波及効果</p> <p>10月は、ラグビーのワールドカップ開催期間中であったため、多くの市民や国内外の観光客の皆様、美しくライトアップされた平和塔や貴惣門を御覧いただいた。家族やパートナーとがんにについて話す機会を持つことで受診行動を促すことが期待できる。</p>		
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の世界規模の乳がん啓発キャンペーンが国宝聖天様における重要文化財の「貴惣門」と「平和の塔」ライトアップは、費用面において「熊谷の力」助成金がなければ実現はできなかったと実感している。当初のライトアップ設置見積額より大幅に高額な実費になったが、施工業者のご厚意もあり支払うことができた。 ・イベント実施に当たり、熊谷市立妻沼東中学校、西中学校の生徒のご協力で約200枚のルミナリエバッグに温かいメッセージを書いて下さり、聖天様参道を情緒あふれる演出ができた。 ・イベント当日の地元ボランティア「妻沼レディース」皆様や地元企業皆様のおかげで事前準備もすみやかに行うことができた。 ・聖天様ライトアップと連携し、富岡清熊谷市長のアイデアで熊谷駅正面口駅前広場の幕シェルター・カラーライティング演出を10月1日～3日までピンクに、また、電光掲示板にピンクリボン啓発の内容を流していただき、1日約6万人が利用する熊谷駅での大きな宣伝になった。 ・点灯式イベント当日は熊谷市長、教育長はじめとした行政関係者にたくさんのご出席を頂いた。(過去9回のピンクリボンデーの中で最多)。 ・実務面では市(熊谷保健センター)の協力をいただき、熊谷市報での案内記事で大きな反響を呼ぶ 		

	<p>ことができた。</p> <hr/> <p>●所管課から見た協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん撲滅運動を視覚的に表現した今回の事業は、家族や大切な方とがんについて話すよい機会となった。がん検診の受診率向上に繋がるものと期待している。 ・民間活力との連携で、よりわかりやすく魅力的に、がんの早期発見・早期治療の重要性を周知できた。 ・熊谷駅正面口駅前広場での幕シェルター・カラーライティング演出でのピンク照明や駅前デジタルサイネージを利用し事業を紹介することで、国宝を有する妻沼聖天山を訪れる国内外のお客様に、熊谷市は「世界のピンクリボン月間に賛同し、がん撲滅に力を注いでいる」ことを大きくアピールすることができた。
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖天様より申し入れがあり、イベント実施後、ライトアップの配線の再工事（景観に問題があるため）、照明器具の安全性を考慮し周りに柵を設置するなど、追加工事費が高額になった。コロナ感染対策のため工事が大幅に遅れ、令和2年4月に工事が終わりました。今後も聖天様への観光客や参拝客に対し安全第一を図るため、現場に足を運び、継続して課題解決へと対処していきたい。 ・当会活動への理解者を増やし、賛助会員、協力会員を増やすことで事業継続のための財源を確保していきたい。 ・啓発ライトアップによる「がん検診受診率向上」へ結びつくように今後も毎年ライトアップを実現していきたい。 ・熊谷市には協働事業で協力いただいたHPやチラシ配付など広報面において、引き続き協力をいただければ幸いです。 <hr/> <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん教育は、市としても重要性を認識しており、平成26年度実施の市民協働「熊谷の力」事業で、熊谷ピンクリボンの会との協働により、「小学生から考える「命（いのち）の授業」～サバイバー画家たるがん教育～」を翌年度から熊谷市の委託事業として継続実施している。 ・今後も、「健康で安全・安心に暮らせるまち」として健康づくりを推進するために、広報面等で協力していきたいと考えている。

(別紙様式1)

団体名 NPO法人SK人権ネット

事業実績報告書 (令和元年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	こども食堂と学習支援活動
3 交付決定助成金額	金 300,000 円
4 助成事業に要した経費の額	金 404,023 円
5 助成金要望額	金 300,000 円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 こども食堂で利用する子供達の年々増加傾向にあり、低くはなしてきており、年々増加傾向にあり、少し喜ばしい。 達成度は70%くらいと見られます。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 会場費の負担の軽減、交通費の支給や文具、コピー代の助成など、多くのボランティアに関わりもらうことができた。子供達を楽しく参加させていると思う。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 交通費が支給できた事で、ボランティアの負担が軽減された。 子供達の使う教材のコピーができた事で、皆に使用してもらえた。
7 成果の自己評価	月に2回の活動を毎回開催する事が、とても大変だった。こども食堂や学習支援も、もっと工夫して、もっと子供達の為にできるようにしていきたい。具体的には、小学生と、小学生、中学生と別々の指導ができれば、尚良いと思います。

(別紙様式1)

団体名	NPO 法人 AEA 英語通訳キッズプロジェクト
-----	--------------------------

事業実績報告書 (令和元年度)

1	助成金名	「チャレンジ助成金」
2	事業名称	おもてなし英語ガイドリーダー育成事業
3	交付決定助成金額	300,000円
4	助成事業に要した経費の額	400,128円
5	助成金要望額	300,000円
6	(1) 助成事業の目的達成度	目標に対して100%達成
	(2) 助成事業の成果の現われ度	熊谷市にお見えになる海外からのお客様へボランティアで熊谷をご案内またおもてなしできる子供たち、またそれを束ねるガイドリーダー、サブリーダーたちの育成および実践研修ができた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	今回の助成事業により、熊谷市ガイドリーダー(18歳以上の英語ガイド経験者、講師)の育成ができた。引き継いでいくサブリーダー(18歳以下の中学生、高校生)の育成ができた。 地域社会に広く貢献する「おもてなし英語ガイド」の実施ができた。
7	成果の自己評価	ラグビーワールドカップで子供たちが英語でおもてなしする報道がメディアで取り上げられ全国紙にまで掲載されこの活動が注目され、全国(神奈川、大阪府、宮崎県)でもAEAの活動が広がっている。2020年オリンピックパラリンピックでは、埼玉県と連携し、約570組約1500名のおもてなし親子ボラボランティアを育成する予定で準備を進めている。

(別紙様式1)

団体名	二十二夜ー熊谷の結わえるトコロ
-----	-----------------

事業実績報告書（令和元年度）

1	助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2	事業名称	二十二夜 月待ち講イベント	
3	交付決定助成金額	100,000円	
4	助成事業に要した経費の額	172,195円	
5	助成金要望額	100,000円	
6	助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	二十二夜講という文化の継承及び熊谷の文化と歴史に触れることのできる月1回のイベントを行うことにより、広く市民の方に「二十二夜」が周知してもらえるようになったので、今年度の目的は達成したと思います。また、色々な方面で活躍されている方や地域の方との交流も行われたことにより、今後へもつながっていけるとと思います。
		(2) 助成事業の成果の現われ度	市民の方に「二十二夜」という名前を知ってもらえるようになり、横のつながりができたこと。毎月イベントを行っていることを周知してくださる方が増えていること。安定して地域の方のイベントへの参加があり、確実に地域の活性化がみられ、地域のつながりが持てた。
		(3) 助成事業の成果の具体的内容	月1回程のイベントで平均20～30名の集客。 セミナー・ワークショップで平均7名の集客。 Town News「NAOZANE」掲載。 平戸の大仏公開事業や藍染堂御縁日への出張。 出店事業により、横のつながりを持てたこと。
7	成果の自己評価	二十二夜講という文化は、継承されている例がほとんどないことから、今回の復活はとても意味のあることと思われ、イベントに参加してくださる方の中には文化を研究されている方もいらっしゃる、新たなコミュニティを作ることによりますます熊谷の文化と歴史を広められるつながりが持てたと言えるでしょう。また、多くの方に周知してもらえるようになり、とても意義のある活動を行えたので、素晴らしい10カ月だったと思います。	

(別紙様式1)

団体名	くまがや藍・木綿文化研究会
-----	---------------

事業実績報告書（令和元年度）

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	熊谷地域における藍・木綿文化の発掘及び広報活動
3 交付決定助成金額	100,000 円
4 助成事業に要した経費の額	138,985 円
5 助成金要望額	100,000 円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 勉強会・パンフレット制作・配布とも、十分な目的を達成することができた。新型コロナ感染対策として研究発表会は中止にせざるを得なかったが、次年度の実施を目指したい。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 勉強会では、新たな知見を発見することができた。パンフレットも、熊谷の隠れた服飾文化を発掘できていると、上々の評判を得ている。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 6月から10月にかけての勉強会においてこれまで知られてこなかった熊谷地域の藍・木綿文化を発掘することができた。熊谷染め継承者の大久保伯男氏・横田透氏にも取材をおこなった。勉強会などで得た知見を紹介するパンフレット制作をおこない、市内各地に配布することができた。
7 成果の自己評価	新型コロナウイルス感染対策として、研究発表会の実施は中止となったが、それ以外については満足いくものになった。情報誌「Na ozone」で団体活動が取り上げられたり、FMくまがやで告知依頼が来るなど、市内メディアを中心に上々の評判を得ている。

(別紙様式1)

団体名	歌声広場 まりおん
-----	-----------

事業実績報告書 (令和元年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	歌唱を活用したレクリエーションや音楽会、健康教室、研修会
3 交付決定助成金額	100,000円
4 助成事業に要した経費の額	241,828円
5 助成金要望額	100,000円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 H31.04月から介護保険施設での歌声レクリエーション開始し、H31.06月からは、まちなか交流広場にて歌声レクリエーションの場を開設し、7月除きR02.02まで継続的に公演をさせていただきました。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 公演毎に歌集を準備、配布していましたが、参加者全員が下を向いて歌うことで猫背になりがちであり、またレクリエーションでも手元の歌集が障がいになりましたが、ノートパソコンで大きな文字で歌集を作り、それをプロジェクターで白壁に投影したことで、これらの問題が改善しました。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 介護保険施設：8回、ホヅカフェ8(地域包括はなぶさ苑管轄)：1回、まちなか交流広場：8回、市民祭り：1回障がい者団体イベント：1回、その他音楽会：1回(合計20公演)実施。まちなか交流広場での参加人数は、最終的に50名となり、プロジェクトでの大きな字の歌詞も含め、参加者から好評いただきました。
7 成果の自己評価	右肩上がりで参加者が増え、またデイベース等の出張での公演でも好評いただきました。今後も楽しみや生きがい、健康増進、介護予防の地域コミュニティとして、継続したいと思います。

(別紙様式1)

団体名	ミュージアムを作りたいね会議
-----	----------------

事業実績報告書 (令和元年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	小さな講演会と文化財保管施設等の見学会
3 交付決定助成金額	78000 円
4 助成事業に要した経費の額	80070 80073 円
5 助成金要望額	60000 円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 事業を通して、今まで熊谷には何もない！と嘆いていた多くの市民の皆さんに、熊谷の文化も捨てたものではないという認識を持っていただくことができたのではないかと思います。また、地域の歴史や文化について学び、地域への誇りを創造する“ミュージアム活動”が他の市民活動団体にも良い刺激を与え、歴史、文化をキーワードに多くの市民団体の皆さんと良いつながりを持てたと思う。緩やかに“ミュージアム活動”が浸透していっていると感じることができた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 宝物巡りツアーには36名の参加者があり、参加者の皆さんに大いに満足していただくツアーとなった。各施設では、とても友好的に迎えていただき、丁寧な解説を聴くことができた。熊谷の文化財の多さを目の当たりにし、驚きをもたれていた。バスの中でも、一緒にバスに乗っていただいていた図書館の学芸員大井さんから、通る場所場所での歴史的な解説があり、充実していた。こうして、熊谷の文化や歴史に触れることで、熊谷を見直すきっかけ

		<p>けになり、十分な“ミュージアム活動”が出来たと思う。活動に参加することで図書館にて行われた企画展に足を運ばれた方もいた。</p> <p>残念ながら、県外からミュージアムの館長を招いての小さな講演会「ミュージアムが出来るまでのあれこれ」は新型コロナウイルスの影響で催すことができなかった。</p>
	<p>(3) 助成事業の成果の具体的な内容</p>	<p>令和元年 10 月 30 日宝物を巡るツアーの事前レクチャーを開催。この事前レクチャーにはツアー参加者でない方の参加が主で 20 人ほどだった。ツアーには参加できないが、熊谷の宝物には興味があるということだった。令和元年 11 月 12 日に宝物を巡るツアーを開催。参加者 36 名。熊谷にもこのような歴史と文化があったことが驚きだった。京都巡りより、熊谷巡りが面白い。これからもこういう活動に是非参加したい。などの感想をもらっている。今後も歴史、文化を巡るツアーや小さな講演会を続けて行ってほしいとも要望があった。また、残念ながらツアーに参加できなかった人たちからも、そんな企画があったのなら、参加したかった。来年度またそういうことがあれば是非参加したいと、多くの方からの要望があった。</p>
<p>7 成果の自己評価</p>		<p>熊谷の文化、歴史、人物について、今までも文化人と言われている方々の間では、当たり前のように知られていたことかもしれない。しかし、多くの市民にとっては、ほとんど知らない世界だった。今回、この事業をすることで、広く市民に知ってもらうきっかけになったのではないかと思う。文化、歴史を学び、研究することを基に、地域に対する誇りを創る“ミュージアム活動”についても少しずつ、浸透していったことを感じる事ができた。今後も地道に活動を続け、歴史、文化をキーワードに多くの市民をはじめ、市民活動団体などの団体とも緩やかにつながることで、熊谷にミュージアム活動を広めていきたいと思う。</p>

(別紙様式 2)

(別紙様式1)

団体名	あすなる・すみれ会
-----	-----------

事業実績報告書 (令和元年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	発達障害や不登校の悩みを抱える家族のサポート	
3 交付決定助成金額	89,000円	
4 助成事業に要した経費の額	120,500円	
5 助成金要望額	89,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	保護者の理解を深める研修を開催し、悩みを共有することができた。 保護者の以外の方にも参加していただき、それぞれの立場で不登校について考えることができた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	同じ悩みを持つ保護者のために毎月一回開催した茶話会は、参加者が増えた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・講演会の開催や市民活動支援センターを利用することで、不登校への支援団体があることを社会に発信できた。・茶話会を定期的を開催することで同じ悩みを抱える保護者が集まるようになった。
7 成果の自己評価	不登校の子を持つ親を支援する団体として、あすなる・すみれ会を知っていただけた。 悩みを抱える親のために場所づくりができた。	